

モダンクラシック  
人と歴史と、家を繋ぐ



冬の暖房のメインは薪ストーブ。炎を眺めながらの癒やしの空間で日々の生活を送る。



太陽の南中高度を計算に入れて窓を設置。夏は涼しく、冬は暖かい。



北海道産のナラやカラマツをふんだんに使用。住宅街でひと際目を引く。



浴槽に入りながら外の自然を感じられるバスルーム。壁面も木材で統一し、穏やかで居心地がよい。

ともに成長して愛着へ。  
住み継がれる家づくりを

近年、日本における住宅の平均寿命は30〜35年ほどで、欧米と比較すると短くなった。せっかく新築で建てても、家族構成の変化によって20年ほどで住み手がなくなってしまうこともある。どうしたら2世代、3世代が一つの家で快適に住み続けられるのだろうか。武部建設株式会社にそんな疑問を投げかけてみた。

2016年8月に岩見沢市の住宅街に家を建てたSさん一家。職場から30分以内で自然豊かな環境という条件のもと、偶然出合ったのが今の土地だったという。

「勾配がついていて、草木が茂り、崖下は公園。見た瞬間『この土地だ!』

長く住み続けてもらうためには、家に愛着を抱いてもらうためには、武部建設は家の在り方への問題提起をしながら、再生で築き上げてきたノウハウを、新築住宅に活かしている。

とピンとききましたね」。家の中にいながら、季節の変化を感じられるような窓の配置にしたり、北海道産の建材を使用することで「木の上の鳥の巣にいるような感覚」を演出したという。勾配があり、崖近くという一見難しそうなお宅地を見事に活かした造りの住宅が出来上がった。美しい景色が見えるようにと計算して設計された窓から外を眺めていると、住宅はもちろん土地そのもののへの愛情を感じられる。

住み始めて1年ほどだが、Sさんが家で過ごす時間が増えたというのは愛着がわいているからこそ。子ども達の成長とともにこの家も成長し、さらに深い愛着へと変化していくことだろう。



| 武部建設株式会社 | モダンクラシック 人と歴史と、家を繋ぐ



## 価値あるものに、新たな価値を加える。 民家再生から学んだこと

武部建設の代名詞とも言えるのが「民家再生」事業。100年以上前に建てられた家を一度解体し、それらの材を活用して再度家建て直すというものだ。北海道はそもそも、明治や大正の時代に本州から入植した移民によって開拓がなされた地域である。原生林を切り拓き、真面目に一生懸命働いた開拓者たち。彼らの出身地は北陸や東北などさまざま、家を建てる際には自分の出身地の様式の民家を建てたという。

当時の北海道は良質な広葉樹がまだ豊富で、現在なら家具材として使われるような良材が住宅の構造材に惜しげもなく使われており、3世代、4世代の時を経てなお住むことのできる家が、まだわずかが残っている。そういった家々が時代の変遷の中で解体される時、それを「再生」するのが武部建設の仕事のひとつ。北海道内で民家再生を事業として取り組んでいる企業は少

ない。

1999年からやってきた民家再生事業で学んだことは、素材である木材の活かし方、作り手としての大工の大切さ、「構造即意匠」とも言われる木組のデザインなど、他では得られないものばかり。民家再生の仕事は伝統的価値に、新たな価値を加えて次の世代に受け継いでいくことでもある。

武部建設は民家再生事業を始める前から高断熱、高气密工法に力を入れており、今では北海道で最先端を行く省エネ技術を有している。「民家再生で得たものを、どのように新築に取り入れていくか。これがうちの仕事の根幹になります」という武部社長。民家再生と最先端の省エネ技術。新旧の融合が価格競争からの脱却、そして自社の強みを発揮できる家づくりへと繋がっていく。そのデザインコンセプトとなるのが「モダンクラシック」だ。



三笠本社敷地内にある民家再生モデルハウスでは、高い断熱性と気密性を実感できる。



同じく本社敷地内の武部邸。正面は平屋だが、裏から見ると2階建ての別荘のよう。





| 武部建設株式会社 | モダンクラシック 人と歴史と、家を繋ぐ





大工は2~3人で班を組んでひとつの現場に通い詰める。  
近年は南方面は森町、北方面は枝幸町など地方の現場も増えてきた。

## 「大工の学校」で得た適応力を活かして

武部建設の大工は14人。それに対して年間の建築棟数は10棟ほどである。これは通常の建築会社の3分の1程度の数字だ。武部建設が手がける木造住宅は、ひとつの現場で大工の関わる仕事量が非常に多い。民家の解体は「大工の学校」でもある。自分で考え、自分で判断することで多くのことを学び、現代の大工として必要な適応力を身に付けていく。また、そこから得た知見

が大工の仕事を増やしていくのである。それらの経験がすべて新築の住宅に生きてくるのだ。

北海道の寒さを克服した民家再生や、最先端の省エネ技術による現代木造住宅のニーズは年々高まっていて、本州からの移住者の依頼も増えてきた。武部建設の木に関わる技術、技能は住宅建築のみならずさまざまな建築にも適応していくものと思われる。

が大工の仕事を増やしていくのである。それらの経験がすべて新築の住宅に生きてくるのだ。



若い世代の職人を育成中。  
81歳のベテラン大工の存在が目標になっているという。

### 武部建設株式会社 本社 民家再生モデルハウス

三笠市萱野219 TEL.01267-2-2312

### 岩見沢事務所 結ホール

岩見沢市5条東18丁目31 TEL.0126-22-2202

モデルハウスや結ホール来訪希望の方は  
お電話にてお問い合わせ下さい。

<http://www.tkb2000.co.jp>



## shiro

北海道の自然素材を厳選して配合した化粧品を製造販売するshiroのカフェとショップ。木造倉庫を再利用している。



砂川市西1条南5丁目1-4  
TEL.0125-52-9646  
● 営業時間 / 10:00~20:00 (L.O.19:30)  
● 定休日 / 木曜 (祝日の場合翌日)  
<https://shiro-shiro.jp>

小屋組みがよく見える2階では化粧品やフレグランス等の販売を、吹き抜けの1階カフェではパンケーキやコーヒーが楽しめる。



## 2 宝水ワイナリー

岩見沢市宝水町364-3 TEL.0126-20-1810  
● 営業時間 / 10:00~17:00  
<http://housui-winery.co.jp>



2006年に完成した販売店兼醸造工場。古い木造倉庫を移築再生し、宝水の風土や景観になじむデザインとなっている。

武部建設の  
建築物めぐり



## 3 NORTH FARM STOCK

ノースファームストック

岩見沢市志文町292-4  
TEL.0126-35-5251  
● 営業時間 / 10:00~18:00 (L.O.17:30)  
● 定休日 / 無休  
<http://www.northfarmstock.com>



設計は鈴木理アトリエ。武部建設はショップ増築と工場新築を担当した。

